

第2回 循環共生型の地域づくりに向けた検討会 資料

# 前回の議論の整理と大局的な視点について

2014年11月21日

凡例: 目指すべき地域像

地域のストック

地域経済循環分析

施策の展開

	ご意見	視点・論点
深尾委員	地域経済循環分析を各省庁の地方創生の取組の接着剤とし、中心に置いて議論ができるようにすることが重要である。	地域経済循環分析
	ここでの議論を国家像、社会像にどうやって昇華させるかが大事であり、環境に閉じた議論に落ちてしまっていない。	目指すべき地域像
	イノベーションが活発化していくような政策や施策をセットしていかなければならない。	施策の展開
大西委員	地域のポテンシャルとしては再エネにはいろいろな可能性があるが、そのためのインフラ(送電線網、蓄電の仕組み等)が必要。そのような社会を実現するため、日本全体の基本的方向性を左右するような議論、問題提起をしていく必要がある。	目指すべき地域像
山口委員	東京で議論すると壮大な話に聞こえるが、地域では、CO2を減らそうというつもりではなくても、高齢化・人口減少が進んでいる中で、安全・安心な暮らしを実現するということを目的に置くと、高齢化したら車に乗れないという議論になる。そのような意識を持った人が分野を超えてつながるといった動きが起こり、地域に雇用も生まれ、安心安全な将来を希望できる事例がいくつも生まれている。	目指すべき地域像
松木委員	ベースとしては、まず自分たちで調べるということが大事だと考えている。経済を見据えつつ環境という視点をセットで持つことには難しさもあるが、調査を活かし取組を進めていきたい。	地域経済循環分析
藤野委員	アジアでも雇用、投資がキーワードとなっており、世界に通じるものを作っていくというのが大事である。	目指すべき地域像
	ストックの観点も大事であり、2050年を見据えてどのストックを残すか、新しい技術を取り入れたトランジションをどうやっていくか、という発想も必要である。	地域のストック
橋本委員	環境行政を持続的にするためにはビジネスとして、産業として成立させるという視点が必要である。	施策の展開
	循環分析を地域で活用するための仕組み、使える仕掛けをどうするかということも検討して頂きたい。	地域経済循環分析
	新しい産業創造・イノベーションを地域で生み出していく新しい枠組みを地域がどのように作るかも一つの論点になる。たとえば行政区分を超えた経済圏、民間を入れたものなど、政策づくりの枠組みを工夫していく必要がある。	施策の展開
	政策ツールのハードだけでなく、ソフト面も高める必要がある。経営技術を高め、ビジネス人材等を地域がどのように育てていくか、という点も視野に入れないと実現にたどり着かない。	施策の展開
	金融の役割も重要である。事業実現のための目利き・コーディネートという意味では金融がより踏み込んだ役割を果たすことになるだろう。	施策の展開
	地域政策はパッケージ的・包括的なやり方をするべきであり、全体感が重要と考えている。	施策の展開
重委員	地域経済循環分析というツールは、改めて分析することでそれぞれの取り組みがどれくらいの効果を持っているのか、もっと推進するべきかがわかる良い指標になるのではないかと思う。	地域経済循環分析

	ご意見	視点・論点
吉澤委員	地域にはお金に換算されない資源が多くあるのでそれをどうやって表出し、豊かな暮らしに生かしていくかということを考えるべきである。	地域のストック
	再生可能エネルギーの導入の際には、地域内に機器の工場があれば活用する等、地域内で資金が循環するような産業政策にも踏み込んでいただきたい。	施策の展開
	自治体に閉じず、広域な地域循環共生圏のような形で議論すると良い。	目指すべき地域像
	グローバル軸の議論になると地域内の雇用という観点は効率が悪いとして切り捨てられてしまう。グローバルとは違う価値を盛り込み、地域目線からどう日本を再生していくかという観点から議論を進めていただければと思う。	目指すべき地域像
小池委員	ストックとは金銭的ストックだけでなく文化・伝統、自然資源などがあるので流出してもまだやっていける。この分析はフローだが、結果的にストックをどうするかという問題を扱っているということ意識し、低炭素をやるのが資源のストックを維持することにつながるのかどうかを議論していくべきである。	地域のストック
	これらの施策が全国で実行可能か、継続的にできるかということを考えると、メリットを説得的に説明する必要がある。分析を通じて、環境を守ることが地域、国家にどのような意味があるかを説明する必要がある。	目指すべき地域像
黒木委員	地域でリサイクルのシステムを構築し、再エネと水質等の環境の改善を同時に進められないかと考えている。	施策の展開
	各自治体によって課題は違うと思うが、それぞれの取り組める枠組み、補助、制度を考えて頂きたい。	施策の展開
川森委員	地域の資源を利用して地域内の人と物と金を循環させようという取り組みを始めたが、市民に伝えるのは大変難しいと感じている。今回の分析は市民の理解を深めるには素晴らしい方法かと思う。	地域経済循環分析
	少子高齢化、人口減少、取組をする人材がいらない等の問題があり、地域内の人材だけでなく、外部の支援員も必要かもしれない。	施策の展開
相委員	地域循環分析の利活用について、色々な論点がきれいに整理され、全体が俯瞰できて問題点が浮かび上がる。他の自治体でも活用できるツールだと感じた。	地域経済循環分析
	再エネの活用が地域にとってポテンシャルが高く、FITもあるため、都市部に移出してビジネスにするという観点が面白い。ビジネスとしてみるとキャッシュフローの安定化が重要なので買取制度、送電網の安定化が必要である。	施策の展開
	市民ファンドは個人が投資するので、何に投資するかという目線があると投資しやすく、潤滑に資金が回っていくと思う。	施策の展開
小林委員	低炭素化が日本の競争力、新しい文化を作る源泉になると思う。オリンピックも加わるので、この機会に地域づくりと低炭素化を落とし込んでいければよいと思う。	目指すべき地域像
	低炭素化と言っても人々が動くわけではなく、経済的なインセンティブだけで対策が進むわけでもない。皆が共感できる良いストーリーを作るといこと、環境だけ、経済だけでなく、いろいろな価値と一緒に売っていくこと、サプライ側とディマンド側がお互い高めあってダイナミックなプロセスが起きていくこと等、複数のコトがある。基本的にはディマンド側を強化していき、環境価値を認めてくれる人がいることが大事だと思う。	施策の展開
	実装する、現物を作ることが大事である。	施策の展開

## 大局的な視点について

### 1. 目指すべき地域像・社会像について

→ スライド5~7

- ✓ 分析や政策の前提として、環境、経済、社会の各面から目指すべき地域像(地域循環共生圏)や社会・国家像を検討する必要がある
- ✓ グローバル経済とローカル経済のそれぞれの特性を踏まえ、地域目線からどう日本を再生していくかという観点からの議論が必要である。

### 2. 地域再生のためのストックの考え方について

→ スライド8~9

地域の力はストックであり、自然資源、伝統・文化など金額で現れないストックも重要である。自然資本への投資を促進する等、短期のフローだけでなく長期的なストックを蓄積する政策について考える必要がある。

## 分析手法を活用した地域づくりの展開について

### 3. 地域経済循環分析の活用について

地域経済循環分析を地方創生に活用していく方法を検討する必要がある

→ 資料4

### 4. 循環共生型地域づくりを進めるための視点

イノベーションの促進、インフラ整備、人材支援等地域づくりの視点、環境価値への支出を促進するディマンドサイドの視点等、総合的に循環共生型地域づくりを進めるための視点を検討する必要がある。

分析や政策の前提として、環境、経済、社会の各面から目指すべき地域像(地域循環共生圏)や社会・国家像を検討する必要がある

## 環境面：地域循環共生圏

### 公共交通を骨格としたコンパクトシティ

- ✓ 都市部では、公共交通を骨格としたコンパクトな市街地が形成され、低炭素な地域となっている。

### エネルギーの地産地消と余剰分の移出

- ✓ 農村部では、再生可能エネルギーの導入が進み、エネルギーの地産地消が実現、余剰分を大都市に移出している。

### 農村からの自然資源の供給と都市からの人材・資金の提供

- ✓ 農村部から都市部へ、自然資源や生態系サービスが供給され、都市部から農村部へは自然保全活動の参加など人材や資金等が提供されている。

### 資源の循環利用と物質循環の健全性

- ✓ 資源の循環利用が進み、物質循環の健全性を回復している。

### 自然の維持再生と森・里・川・海の連関の実現

- ✓ 自然環境が保全されるとともに、自然の適切な利用・管理により里地・里山・里海などが維持・再生され、森・里・川・海の連環が実現している。

## 経済面：地域経済循環の創出

### イノベーションによる生産性の向上・高付加価値化

- ✓ イノベーションによって生産性の向上や高付加価値化が実現し、国全体の競争力が上昇、地域はグローバル経済の中で自立している。

### 再生可能エネルギー等による雇用の創出

- ✓ 地域資源を活用した再生可能エネルギー、自然の恵みを活用した農林漁業や自然再生が雇用を創出し、地域に経済循環をもたらしている。

### 環境価値への支払いによる消費・投資の拡大

- ✓ 消費者は、地域産品や環境価値、文化価値を含む財・サービスを積極的に購入し、消費が拡大、生活の豊かさを実感している。
- ✓ 地域の貯蓄が、地域に再投資されるとともに、社会的価値のある事業への直接投資が進んでいる。

## 社会面：健康で心豊かな生活

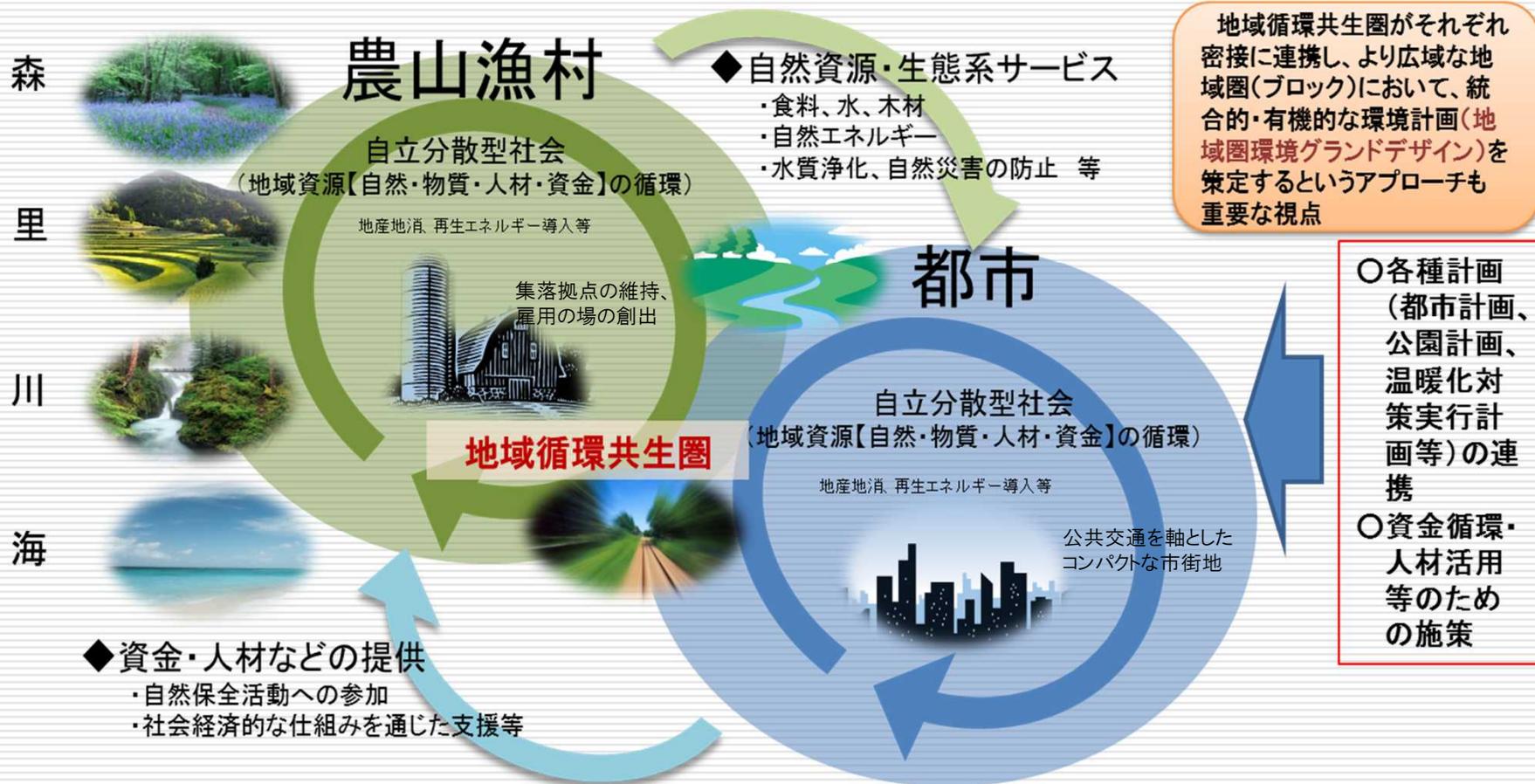
### 地域コミュニティの再生

- ✓ 人と人のつながり、人と自然のつながりが回復し、地域コミュニティが再生。都市と農山漁村の交流も活発化し新たなコミュニティが生まれている。

### 健康的なライフスタイルへの転換

- ✓ コンパクトな市街地の形成によって、徒歩を中心とした生活や、地産地消を核とした食等、健康的なライフスタイルに転換。高齢者も役割を持ち人と人とのつながりを維持することによって、健康で心豊かな生活を実現している。

※スライド4ー5を実現するために制度面・技術面の解決等についても併せて検討する必要がある。



地域の力はストックであり、短期のフローだけでなく長期的なストックを蓄積する政策について考える必要がある

## 地域におけるストックの重要性

- ✓ 地域においてフローがマイナスでも存続していけるのは、中央政府の再分配とともに、地域にストックがあるためである。
- ✓ 地域経済循環分析は基本的にフローの分析であるが、地域の力はストックによって大きく影響を受ける。フローもストックからの産物である。

## 地域におけるストックとは何か

### 資金、人工資本(インフラ、企業設備)

- ✓ 地域のストックとしては、地域の預金量、インフラや企業の設備等(人工資本)、ある程度金額で把握できるものがある。

### 自然資本、文化・伝統、人材(人的資本)、技術、ネットワーク

- ✓ 一方で、自然資源(自然資本)、文化・伝統、人材、技術力、取引ネットワークなど、金額として図れないが、地域経済に大きな影響を与えるストックがある。

### 自然資本を壊す人工資本と守る人工資本

- ✓ 自然資本を壊す人工資本、自然資本を守る人工資本を区別する必要がある。

地域の力はストックであり、短期のフローだけでなく長期的なストックを蓄積する政策について考える必要がある

## フローとストックの関係

### フローはストックの変化量

- ✓ 地域経済循環におけるフローはストックの変化であり、フローの積み重ねがストックである。

### 短期的なフローと長期的なストックの関係

- ✓ ストックによってフローを生み出し、一方そのフローがストックの蓄積となるのが好循環である。ストックとしての技術が経済循環のフローとしての生産を生み出し、生産による経験が新たな技術を蓄積させることにつながる。
- ✓ 反対に、短期的なフローを重視することによって長期的なストックを損なう場合もありうる。自然資源を枯渇させるような生産は、フローとストックが反する例である。

## 環境政策によるストックの維持・蓄積

- ✓ 環境政策によって、地域の自然、文化・伝統等を守り、ストックの維持・蓄積につながる可能性がある。
- ✓ 環境政策によるストックの維持・蓄積は長期的にはフローの経済循環にもプラスの影響を与える。